

日本でサルを神の使いと捉えた例②

【猿まわし】

猿は馬の守護神と考えられてきたので、猿の芸は厩の魔除けや厄病除けとして重宝されました。また、「去る」に通じることから、難が去る縁起の良い芸として正月などに盛んに行われ、大道芸として広がってきました。



【猿の三番叟 (さんばそう)】

三番叟とは能の「翁」(式三番)で千歳、翁に次いで三番目に出る老人(叟)の舞で、大変めでたい舞とされ、物事の始めや幕開きという意味もあります。能の前身が猿楽だったこともあり、猿の三番叟は人形や絵柄のモチーフとしても人気です。



【猿ぼぼ】

岐阜県飛騨地方で作られる人形で、赤い体に黒い頭巾と腹掛けをしています。「猿ぼぼ」とは、飛騨弁で猿の赤ん坊という意味で、魔除けのお守りです。



【くくり猿】

猿の手足をくった人形で、京都の八坂庚申堂・庚申信仰のお守りです。欲望のままに行動する猿をくくりつけた姿で、努力の妨げとなる欲を抑え、努力する心を保ち、願い事を叶えるとされています。

京都界隈でよく見かける▶
「くくり猿」



【三猿 (さんざる)】

3匹の猿が両手でそれぞれの目、耳、口を隠した姿で、「見ざる、聞かざる、言わざる」という叡智の3つの秘密を示しています。

「見ざる、聞かざる、言わざる」の三猿で、江戸初期の左甚五郎作と伝えられています。

くぐり光東照宮の三猿

日本で最も有名な三猿といえば日光東照宮の三猿で、神馬をつなぐ神厩舎(しんきゅうしゃ)に彫られています。日光東照宮の三猿は、猿の一生を表した8つの場面の幼少期を示しています。



三猿のモチーフは、古くから世界各地にありました。日本へは中国を經由して漢語の「不見、不聞、不言」を訳した天台宗の教えとして伝わり、庚申信仰とともに広がったといわれています。

これは、猿が馬の守護神とされているためです。この三猿は、世の中の悪いことを見たり、聞いたり、言ったりせず、良いものだけを受け入れて素直な心で成長しなさいという教えを表しています。



▲神厩舎・三猿(しんきゅうしゃ・さんざる)【重文】
神厩舎は、ご神馬をつなぐ厩(うまや)です。